

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200120		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホーム みどりの		
所在地	群馬県高崎市井野町 377番地3		
自己評価作成日	H22. 7. 1	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生花・フォークダンス・日舞等、地域のボランティアの方と定期的に慰問等で交流し、運営推進会議も2カ月に1回の開催で協力が得られています。午前・午後の体操や散歩等運動の機会を設け機能維持に努めると共に、週1回の訪問歯科からの指導で毎食前に口腔体操を行っています。季節の行事や外出、食事を利用者の方の希望も取り入れつつ職員全員で話し合い提供しております。サービス計画は、センター方式を基盤にしており職員は一人ひとりの利用者をよく観察し、生活する上でのニーズの積極的な把握に努めより良い暮らしを送って頂けるようにとの思いを持ってケアにあたっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は職員に見守られ、天気の良い日は近くの公園まで散歩に出かけたり、絵や俳句を創ったり、好きな番組のテレビを見たり等を行い、笑顔で自分らしく生活している。事業所は、生け花・民謡・踊り等の地域ボランティアの訪問やクリスマス会には地域の区長、民生委員、近隣の方を招待するなど地域との交流を図っている。運営推進会議では会議のメンバーへアンケートを取り、その結果土・日曜日に交互に行い出席し易いようにして、活発な会議となるようにしている。介護サービス計画や介護記録等は詳細に記録され充実しており、熱意のある取り組みが伝わってくる。理念を基に職員は一人ひとりの個性を尊重し、穏やかな安心の日々を過せるよう支援に取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内2カ所に掲げて、職員全員確認し共有しています。	理念は、全職員で創りあげ大切にしている。事業所は地域の方と顔馴染みになり、利用者の尊厳を大切に、安らげる暮らしを支援している。その様子を詳細に家族に伝えて、家族に安心して頂けるように取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方が訪ねて利用者の方々と話をしたり、散歩等での交流・地域の日舞やフォークダンス等の慰問による交流もあります。	事業所は自治会に加入し、利用者は天気の良い日に近くの公園まで出かけ、道すがら挨拶を交わし、花や野菜を頂いたりしている。地域の生け花、民謡、踊りのボランティアの訪問があり、地域の方との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での議題として取り上げたり、周辺の医療機関等からの紹介や個人の見学等に活用できるよう支援しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催をしており、慰問や行事等の報告・外部評価・実施指導についての改善点の報告と意見交換をしています。	運営推進会議は2ヶ月毎に開かれ、出席者へのアンケートから土・日曜日交互に開催しており、時には利用者の出席もある。利用状況、行事運営、評価結果、改善課題等が議題に話し合われ、救急時や災害時の協力を依頼している。会議報告は、書面で家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場以外にも電話での相談等もしています。	訪問看護の利用、事故報告、飲食物の持ち込み時の取り決めの同意書作成などを市担当者と相談を行い、事業所の実情を伝えて協力関係を築くよう取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に当たる行為を理解し、拘束をしないケアを実践しています。又、緊急時やむを得ない場合の同意書については準備をしています。	身体拘束をしないケアの実践をしており、玄関やホールの鍵はかけず洗濯物の取り込み等自由に玄関を出入りしている。最近、窓から出る利用者があり、会議で検討し安全を考えて居室の窓を全開ではなく一部分開けられるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、利用者がその人らしく尊厳をもって生きていけるよう注意を払い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度を利用されていた方もおり、研修等で学ぶ機会を設けて、職員がそれぞれに学ぶ事をすすめています。又、必要時には活用できるように理解と支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解を得られるよう書面にてきちんと説明し、納得いただいてから契約や解除等の手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がいつでも利用できるような意見箱を設置し、苦情受付の表示もしてあります。面会カードには意見欄を設けています。	玄関に意見箱を設置し、苦情相談受付窓口を掲示している。利用者や家族の意見をゆっくり聞くよう努めている。出された意見は検討し、お便りに新人職員の紹介を掲載したり、エプロンに名前を縫い付ける等取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回設けて、個々の意見を提案してもらい運営に反映させています。	職員会議は毎月行い、管理者は職員の意見を聞いている。食器の滑り止め、貼付薬のチェック表、碗の名前を貼る位置、個別ケアのアイデア等職員の意見をケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力した事・実績・勤務状況を常に把握しており、資格修得にも協力的であり、各自が向上心を持って働けるように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習への参加を積極的に行い、勉強会等の時間も設け資格修得に向け取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協議会に加入しており、研修参加や情報取得に努めております。また法人内で交換研修を実施したりと質の向上を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や不安な事を本人又は家族より傾聴し、常に寄り添っている姿勢を取りながら、安心感を得て頂くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間を設けて傾聴し、アドバイス等にて、不安解決に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの優先順位を考え支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は年長者であり尊敬し、学び助けられる事も多く一緒に笑い合える関係であればと努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護経験中の家族の声は貴重であると考えています。面会や電話では日頃の様子や体調を説明、報告させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人や知人の方にも気軽に来所して頂けるように心掛けています。	利用者の友人、親戚の方がホームに訪れており、職員は気軽に訪問されるように心がけている。馴染みの美容院に出かけたり、盆や正月には帰宅し墓参りする等支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡し役となりコミュニケーションを図る機会を増やすよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこちらから訪問したり電話で相談を受けたりと、継続的な関係を保っており、今後も取り組んでいきたいと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の違いを把握し日頃から遠慮なく言える環境を提供し、会話の中からも思いの把握に努めて本人主体に検討しています。	入居時のアセスメント記録を基に、日々の関わり、表情やしぐさから一人ひとりの思いを把握している。困難の場合は、家族から話を聞いて会議で検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人からの情報も参考に今までの生活環境の把握に努め支援につなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員より声掛けや傾聴することで“その人らしさ”の理解に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・医師等の意見を伺い、その方のニーズは何かを職員会議やカンファレンスで検討しています。	職員は家族の面会時に意見・要望などを聞いて、毎月のモニタリング、気づき等を職員会議やカンファレンスで検討している。ケアマネージャーが介護計画を作成し、職員、家族が確認して実践となる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録へ身体の状態・行動や発言等の“気づき”を記入して、情報を共有し今後のケアに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性を考慮して本人・家族と話し合い、その時々状況に応じて必要としている支援が何か把握に努め、図書館の利用もおこなっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人・家族の意向に応じてボランティア・警察の巡視・民生委員に協力をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の意思や家族等の希望を考慮し、今までのかかりつけ医や事業所の協力医の受診を支援しています。往診や訪問診療にて適切な医療を受けられるよう努めています。	本人、家族の希望により、入居前からのかかりつけ医としている。協力医をかかりつけ医とする方には、家族の都合により受診に同行している。また、歯科、緊急時には近隣医の往診が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	“ほうれんそう”を研修により学び、情報の共有に努めています。又、個別チェック表を作成し管理、報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携している病院や今までのかかりつけの病院と、必要に応じて適切な医療が受けられるように情報交換や相談等の連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が生じた場合には医師の診断により入院等の対応をし、本人の希望を尊重して家族やかかりつけ医と相談し方針を決めます。	契約時に、事業所ででき得る最大のケアを説明している。食事摂取が出来ない状況や医療行為が必要になった場合などは、家族、医師と話し合い方針の共有を図っている。重度化した場合や緊急時について意志の確認書作成をこれから検討していきたいと考えている。	家族等の意向を確認し、重度化した場合、終末期に対する不安などをくみ取り、事業所の体制を整える為に運営者、管理者、全職員で検討された。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立合いの消防訓練での救命法の訓練や、消防の救命講習に参加をし訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いによる避難訓練等実施、また運営推進会議で地域の方に報告し災害時の協力もお願いしています。	年2回の避難訓練の内1回は消防署が立会い、夜間想定の実施している。区長や民生委員にも参加への声かけをしている。運営推進会議の中で地域の方へ災害協力依頼をし、乾パン、飲料水等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った丁寧な言葉遣いで対応を心掛けています。	一人ひとりの人格を尊重し、ちゃん付けで名前を呼んだりせず、日々きちんとした言葉遣いを心がけている。居室の入り口には目隠しの暖簾をつける等をしている。個人記録にはイニシャルを使用し、事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と個別の時間を持ち、意向を引き出せるよう傾聴・説明し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活ペースを一番に考えその時に応じた活動やお手伝いへの参加を促し、その人らしい毎日を過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は希望で化粧品や化粧道具を揃えています。希望の方は月1回の訪問美容の利用もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いのできる事をお願いし、快く受けていただいています。好き嫌い等がある方には代替食で個別対応しています。	利用者は野菜の下拵え、味付け、食事の準備や後片づけ等を職員と一緒にやり、現在は介助が必要な利用者はなく、職員も利用者と一緒にテーブルを囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を記録しバランスを考えたメニュー作りに努めています。食事量・水分量摂取の少ない方には好きな物や食べられる物などで対応したり、飲める時に勧めたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科の往診があり、個々にあったケア方法を指導していただき毎食後に実践しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し定期的にトイレへの声掛けや誘導を行う事により、失敗の軽減や布パンツへの移行に取り組んでいます。	トイレで排泄をされている方が殆どで、布のパンツやリハビリパンツを使用している。一人ひとりの排泄パターンを把握して、誘導時にさり気なく耳もとで伝えたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前と午後に違う体操やゲーム、外へ散歩に出たりと運動不足の解消を図り、食事面でも野菜を多く取り入れた献立作りに努め、便秘への予防にとりこんでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日おき、個々の体調を考慮しながら入浴していただいております。体調不良により入浴ができなかった方へも清拭や足浴によって気持ちよく過ごしていただいております。	一日おきの入浴となっているが、希望で毎日でも可能であり、入浴をしない日は健康に良い足浴をしたり、清拭をしたりしている。洗い場は広く、脱衣場に冷たい麦茶を用意したり、季節の柚子等で楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の意思を尊重しながら支援を行っています。不眠の訴え時には就寝前に温かい飲み物の提供も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は全てホームで行っており個人別に服薬表を閲覧できるようにし、服薬する際も提供する前に本人確認をして飲み込むまで見守りを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所・料理の下ごしらえ・洗濯物干し・たたみ・花壇の手入れ等、各自役割が決まっており実践しています。又、散歩を楽しみにしている方もいるので今後も継続していけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気晴らしや気分転換できるよう個々の希望に沿って散歩や買い物の支援をしたり、外食やお花見など外出の機会を設けています。又、家族とも外出できるよう支援しています。	天気の良い日は、近隣の散歩や食材購入に職員と一緒に車で出かけている。個々の希望によりコーヒーを飲みに出かけたり、化粧品や衣類の買い物に出かけている。外食、バラや芝桜の花見等の戸外活動や正月や盆など家族とできるだけ過せるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に応じて家族の判断で所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要性に応じてその都度対応しています。返信を頂き励みにされている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや照明で明るさを調整しています。季節に合った飾り付けをして、居心地良く過ごせるよう懐かしい曲をBGMで流しています。	ホールは東に面して明るく広々としており、中央に食卓があり食事や皆が集う場になっている。ホールに洗面台があり、食後の口腔ケアがやり易くなっている。ホール脇の台所からご飯の炊ける匂いが感じられ、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの好きな場所で過ごせるようダイニングテーブルやソファを設置して配慮しています。新聞・雑誌など読めるようラックを設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の選択で使い慣れた物や好きな物を持ち込んで貰っています。又、本人が製作した物や写真など好みに飾って頂いています。	使い慣れた時計、筆筒、椅子等が持ち込まれ、家族の写真、自作の絵、俳句、習字等が壁に貼られ、好みの衣服がハンガーに掛けられている。一人ひとりの生活スタイルにあわせて居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一日の予定表・カレンダー・時計の掲示と居室やトイレの表示をしています。		